



## 新たな気持ちで

花卉園芸学研究室修士 2年

加藤 善也

私が本稿を執筆しているのは、お盆休みも明けた8月下旬の頃です。連日抜けるような青空が広がり、清々しい気持ちになる一方で、もう少し曇りの日があれば、実験植物の水やりも楽なのになどと勝手なことを思ったりもしています。さて、そんな私が所属する花卉園芸学研究室ですが、今年度に入ってから、大きな変化が2つありました。

まずひとつは、ご存知の方も多いいことかと思いますが、平成24年3月をもって、花卉園芸学研究室の教授でありました安藤敏夫先生が御退官されました。そしてその後任として、秋田県立大学から三吉一光先生をお迎えし、新年度をスタートさせることとなりました。三吉先生はこれまで、ラン科植物やダリアの育種・栽培の研究に取り組んでこられました。現在は修士1年の学生1名が、三吉先生のご指導のもと、ダリアの花色についての研究を行なっています。これまで本研究室は、ペチュニアを主とした研究を多く行なってきましたが、ここ数年はサクラ、フロックス、ダンギク、オステオスペルマムなど研究対象を広げています。そこに今年度からダリアやランが加わることで、より多様な研究がなされることとなり、今後が非常に楽しみです。一方、ペチュニアについては、恐らく今年度でいったん研究を切り上げることとなりそうです。私自身ペチュニアを研究対象としてきたこともあり、少々寂しい気もしますが、仕方がありませんね。ペチュニアを扱う最後の学生として、精一杯研究に励みたいと思います。

ふたつめは、指導教官によって研究室が二分されることとなった点です。これまでは花卉園芸学研究室に所属する学生は全員、松戸キャンパスを主として研究を行なってきました。しかし、今年度からは、三吉・國分先生にご指導頂く学生は松戸キャンパスで、渡辺・松原先生にご指導頂く学生は柏の葉キャンパスで研究を行なうことになりました。現在の在籍人数比は、松戸：柏の葉 = 6 : 8です。私は松戸キャンパス所属の学生ですが、昨年度までと比べると、研究室内の人数が約半数になり、随分と静かになってしまったなという印象を抱いています。私たちは、毎週共同作業ということで、研究室内の掃除や圃場の整備を行なっていますが、とりわけこの時に人数の少なさを実感します。

その中で一番大変なのは夏場の草刈りです。広い圃場を少人数で管理するものですから、毎回ひいひい言いながら炎天下で長時間作業をしています。ただ、人数が少ないと良いこともあって、ひとつは実験器具を使用する順番待ちが殆どないこと、もうひとつは研究室内の机を広く使えることです。学生1人あたり2つ以上の机があるので、こっちの机でパソコンを操作し、そっちの机で実験ノートを纏める様子は、まるで手際の良いコックさんみたいです。勿論研究室が二分されたといっても、完全に交流がなくなったわけではありません。行事があるときは共に行動します。花葉会サマーセミナーのお手伝いなどはその例です。また、大学祭では共同でフラワーショップを出店する予定です。そして先日は上半期の打ち上げということで、バーベキューを一緒に楽しみました。久しぶりに顔を見るメンバーもおり、私は嬉しくなつてつい、いつもよりはしゃいでしまいました。

たとえ場所が離れていても、気持ちは繋がっている。花卉園芸学研究室はそういう集団であると思えます。また、これは世代を超えた関係でも同じことが言えると、サマーセミナーの交流会の場にて思いました。10月には学部3年生7名が、新たなメンバーとして研究室に加わってくれます。新体制の花卉園芸学研究室はまだ始まったばかりですが、これまでの良き伝統はそのままに、新たな風も感じるころでありまして、今後更なる発展を遂げていくことと思います。これからも花卉園芸学研究室を温かく見守っていただきますよう、皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

